

JA全農 WEEKLY

今こそ広げよう、支援の輪 新型コロナ受け各地で実施

(各県本部、協同乳業、フードマーケット事業部、酪農部)

4-5面

3面



刷新されたJA全農たまごのコーポレートサイト(8面)



新型コロナ受け広がる支援の輪(4-5面)

- 2 中国四国ブロック労働力支援協議会を設立(耕種総合対策部)
ツマジロクサヨトウへの殺虫剤の効果を
確認(営農・技術センター農薬研究室・耕種資材部)
- 6 ここに注目! 新生全農ホームページ③
(広報・調査部)
- 7 JAズームイン(茨城:JAなめがたしおさい)

- 8 JA全農たまごがコーポレートサイトを
刷新(畜産総合対策部)
ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN
JAPAN」プレゼント(広報・調査部)
JAタウンショップ紹介
JA全農福島

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

日本代表選手を食でサポート!
2019年振り返りレポート④
卓球・ブルガリアオープン
(広報・調査部)

「JA全農チビリンピック2019」
振り返りレポートvol.3
~お楽しみ広場篇①~(広報・調査部)

採択企業紹介(経営企画部)

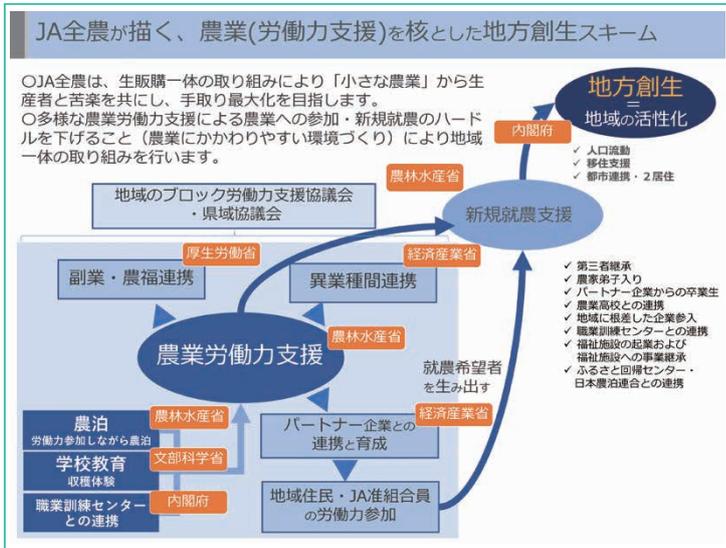
JAアクセラレーター(第2期)



中国四国ブロック労働力支援協議会を設立

関係機関が連携し地域課題に対応

耕種総合対策部



全農は、生産現場の人手不足に積極対応するため4月27日、「中国四国ブロック労働力支援協議会」を立ち上げました。

全農では生産現場の労働力支援へブロックごとに順次、関係組織一体で協議会を立ち上げる方針で、今回は今年1月の「九州ブロック労働力支援協議会」設立に続く第2弾です。

協議会メンバーは全農・県農協、県中央会、農林中央金庫岡山・高松支店、パートナー企業の間口(まぐち)ウエストロジ株式会社(本社・大阪市)の他、JA全中や県行政、日本農泊連合・ふるさと回帰支援センター・A(エーダッシュ)ワーク創造館などがオブザーバーで参加しています。地域課題に対する先進県・協力機関による相談・サポート、困難な年間作業量の平準化やパートナー企業と連携した農作業受委託をはじめとした多様な労働力支援に取り組む他、新型コロナウイルスに関する政府の緊急経済対策の活用も進めます。

JA Zenroh Weekly

ニュース&トピックス



ツマジロクサヨトウへの殺虫剤の効果を確認

15農薬に高い効果

営農・技術センター農薬研究室・耕種資材部



ツマジロクサヨトウの幼虫

商品名
スミチオン乳剤
プリンスフロアブル
ディアナSC
アフーム乳剤
アニキ乳剤
コテツフロアブル
パダンSG水溶剤
カスケード乳剤
アクセルフロアブル
プレバソフロアブル5
ベネビアOD
フェニックス顆粒水和剤
パーマチオン水和剤
キックオフ顆粒水和剤
プレオフロアブル



トウモロコシの食害状況

全農は、2019年に日本に新たに侵入した害虫「ツマジロクサヨトウ」への殺虫剤の効果を確認しました。

ツマジロクサヨトウは、2019年に日本に新たに侵入した害虫で、世界的にはトウモロコシなどで甚大な被害を発生させている害虫です。国内では新害虫であるため、ツマジロクサヨトウに登録のある農薬はなく、防除にあたっては、農林水産省が示した農薬リストに記載の農薬を都道府県の指導のもと使用することになっていきます。

そこで、営農・技術センター農薬研究室は、薬剤選定の一助とするため、農薬リストに記載の農薬のツマジロクサヨトウへの効果確認試験を行いました。表に記載する殺虫剤は1齢幼虫のツマジロクサヨトウに高い効果が確認できたものです。これらの結果を有効に活用し、現場での課題解決に役立てていただくようお願いいたします。

JAアクセラレーター (第2期) 採択企業紹介①

JAグループが東京・大手町に設立したAgVenture Lab(アグベンチャーラボ)で、5月18日にJAアクセラレータープログラム(第2期)の最終審査コンテストが開催され、8社が優秀賞として採択されました。今号から8社を順番にご紹介します。【経営企画部】

株式会社CuboRex

プラン名 ねこ車電動化キット「E-Cat kit」

有田ミカンで有名な和歌山県有田市出身の寺嶋瑞仁氏が代表を務める同社は、雪国や農地などの悪路環境で使用可能な乗り物や運搬器具を製造開発しています。主な製品はクローラ動力ユニット「CuBase」、手押し輪車の電動化キット「E-cat kit」、乗り物などへ取り付け可能な動力装置「CuBox」です。

コンテストでは、「世のすべての一輪車を一時間で電動化」することで、中山間地における農業の課題解決(人力中心の農作業の軽労化・効率化)を目的としたプレゼンを行いました。手押し輪車の電動化キット「E-cat kit」は、ミカン収穫現場などでの運搬作業が軽労化され、高齢者や女性でも運搬作業が行いやすくなること、運搬車を斜面や不安定な場所でも使用しやすくなることで、作業速度を約2倍、体への負担を約半分にするを可能としています。

今後約4か月間に渡るアクセラレータープログラムにおいては、JAの営農センターでの「E-cat kit」試験販売の実施、独自技術を活用したさまざまな農業ロボットの開発検証を目標としています。



「E-cat kit」の
応用例

株式会社シェアグリ

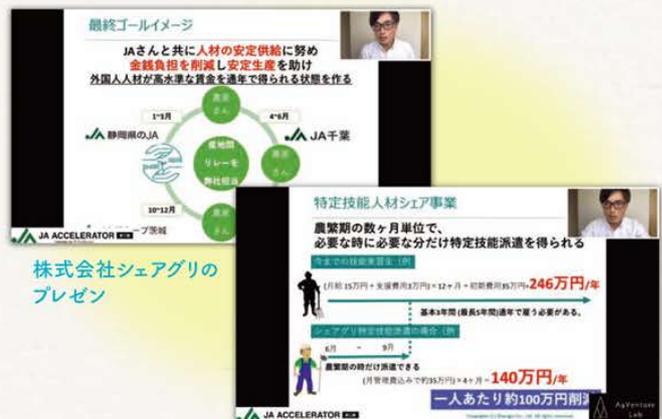
プラン名 シェアグリ特定技能人材派遣

同社は長野県佐久市で150年間続く種苗会社を実家に持つ井出飛悠人氏が代表を務めています。農業における人手不足を農業人材派遣などのシェアリングエコノミー(インターネットを介して、個人間で物・技能などを共有する仕組み)により解決を目指す会社です。

コンテストでは、「農繁期に限定した特定技能人材(※)の派遣」により、必要な時に必要な人数だけの人材確保を可能にすることで、農業者の人手不足の解消による安定生産および人件費の削減による手取り向上を目的としたプレゼンを行いました。

今後約4か月間に渡るアクセラレータープログラムにおいては、JAと連携して特定技能人材の派遣先を確保することで、将来的には全国の産地間における人材リレーを実現し、通年で特定技能人材を全国に派遣可能な仕組み作りを目標としています。

※特定技能人材とは、農業等の人手不足が深刻な産業分野における一定水準以上の技能や日本語能力を有する新たな外国人材として、2019年4月に認可された人材。



シェアグリ特定技能
人材派遣

今こそ広げよう、支援の輪

新型コロナ受け各地で実施

今回も新型コロナウイルスの影響を受ける農畜産物の消費拡大など、全農の支援の取り組みを紹介します。

山形県本部

山形県産サクランボや総称山形牛が当たるプレゼントキャンペーンを実施

山形県本部は、需要減少が懸念される県産農畜産物の消費拡大を図るため、県関係機関と「山形県産農林水産物消費拡大キャンペーン」を実施しています。その一つとして、5月2日からウェブプレゼントキャンペーンを行っています。第1弾、第2弾それぞれ1000人に、抽選で県産サクランボや総称山形牛が当たります。

6月16日まで実施中のキャンペーン第2弾は、県本部のJAタウン「小さな



YAMAGATA マルシェ」などを含む対象の通販サイトで3500円（税込み）以上購入すると応募できる仕組みです。

ウェブプレゼント
キャンペーンはこちら



長崎県本部

JAグループ全役職員が「長崎和牛」を応援消費

長崎県JAグループは、消費が落ち込んでいる「長崎和牛」を購入し、畜産農家を支援しようと、長崎和牛消費拡大運動に取り組んでいます。全役職員が4～8月の5カ月間、長

崎和牛を毎月購入します。

さらに、県産農畜産物の消費喚起を促す広報対策（CMや番組プレゼント）を行い、県産農畜産物の消費拡大を図っています。



農畜産物消費喚起CMイメージ

協同乳業(株)

酪農家応援! ラッシー作ろう! キャンペーン Twitterで展開中 農協牛乳、農協ヨーグルトをプレゼント

協同乳業株式会社は、牛乳・乳製品の消費拡大に向けたキャンペーンをTwitter上で展開しています。Twitterの「メイトー公式アカウント」で、キャンペーンの一環で、牛乳とヨーグルトで簡単にラッシーが作れることなど

を投稿。同アカウントをフォローし、キャンペーンに関する投稿をリツイートした方の中から、抽選で30名様に「農協牛乳500ml、農協ヨーグルト400g各1個」をプレゼントします。キャンペーンは6月7日まで。



メイトー公式アカウント
はこちら



フードマーケット事業部

新型コロナウイルスで影響を受けた生産者・産地、消費者を支援

全農が運営する産地直送ショッピングモール「JAタウン」では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を特に受けている生産者への支援として、また家庭での調理の機会が増えた消費者のみなさまへの支援として、特設ページ「さんち直送おうちごはん」を5月1日に開設しました。

対象となる国産の牛肉・果実・乳製品・花を、先着2万6000件の注文について、送料無料でお送



りしています。

JAタウンでは国産の牛肉・果実・乳製品・花の消費を拡大し、生産者の経営安定につなげるとともに、消費者の皆さまをサポートすべく、取り組みを展開していきます。

JAタウン
特設ページはこちら



酪農部

フードバンク・子ども食堂・医療従事者へ牛乳を無償提供

全農は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける酪農家や子どもたち、医療従事者を支援するため、関東生乳販売農業協同組合連合会と連携し、関東エリアを中心としたフードバンクや子ども食堂、関東エリアのJA厚生連病院に牛乳を無償で提供しました。

牛乳には免疫機能の強化・調整に作用するといわれるタンパク質をはじめ、それらをサポートするビタミンAやミネラル類がほどよ

く含まれています。新型コロナウイルスに負けずに健康で元気に過ごしてほしいとの願いも込めた取り組みです。

この取り組みにあたり、子ども食堂からは「3月の一斉休校から買い物にもゆっくり行けない日々の中で、子どもたちの成長には欠かせない牛乳を用意いただけることは、本当にありがたい」「現在、子ども食堂は休止してお弁当を配布しています。牛乳も一緒に渡すことができ、私たちスタッフもうれ



学校給食と同じデザインの常温保存可能牛乳(200ml)を約10万本贈りました

しく思っています」などのメッセージをいただきました。



子ども食堂で牛乳を受け取り笑顔の皆さん

ここに注目!

新生全農ホームページ 3

～「生産者・会員JAのみなさまへ」ページ～

新たな全農本所ホームページの注目ポイントを紹介する企画の第3回で取り上げるのは、「生産者・会員JAのみなさまへ」ページです。生産者の経営に役立つ情報を整理して発信しています。【広報・調査部】

耕種・畜産に情報を整理

今回のホームページリニューアルでは、全農になじみの薄い消費者にも分かりやすいページを目指すと同時に、生産者やJA関係者など、従来から全農に関わりの深い方々にとっても、より全農のことが分かる、より役に立つホームページとなるよう、情報を集約、整理しました。

今回紹介する「生産者・会員JAのみなさまへ」ページは、生産者、JA関係者の営農、経営に深く関係する内容を集めています。トップページにも大きな入り口を設け、アクセスしやすくしています。

具体的には耕種と畜産に分けて「営農支援情報」を掲載。耕種では、TACのページや土壌診断について紹介するページ、「おすすめする省力低コスト・生産性向上メニュー」などへの入り口等を並べた他、GAP(農業生産工程管理)については全農ウィークリーの最新記事一覧にアクセスできる入り口を設けました。畜産では、情報量豊富な畜産総合情報サイト「JACCネット」と連携。同サイトが紹介する畜産物や配合飼料価格の動向等への入り口を並べました。他にも、畜産関連の施設・資材について紹介する全農畜産サービスのサイトへのリンクも設けるなどしています。

経営に直結する最新情報も

農家、JA関係者らが新たな情報を把握できるよう、全農が発表するニュースリリースのうち、農家の経営やJA事業など農業に関する全農の事業情報などや、各県本部が発表する家畜市場の情報や農業関連イベントなどの情報を発信するコーナーも設けました。営農・技術センターや畜産関連の各研究所のホームページ、全農の各事業の紹介ページ、「JAグループ中古農機WEB」へのリンクも設けるなど、営農に関連する各種ページへの導線も確保しています。

ポイント 2

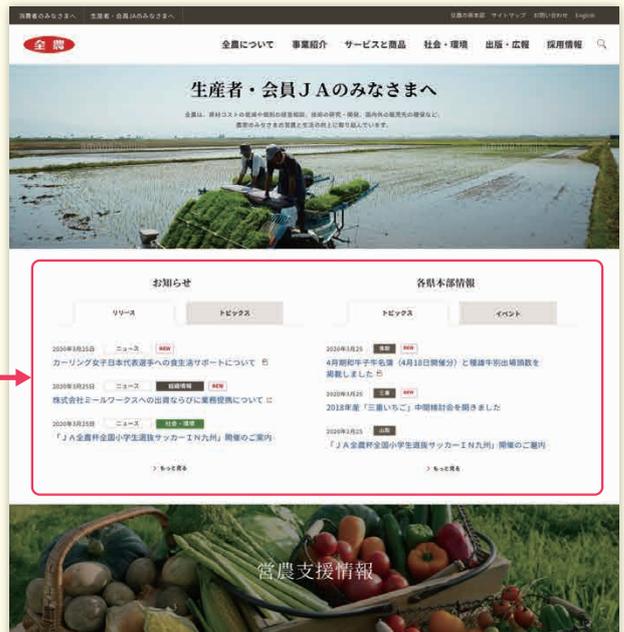
耕種農業に関する営農支援情報を掲載。TACや土壌診断、コスト低減、GAP、スマート農業など幅広いコンテンツへの入り口を集約

「生産者・会員JAのみなさまへ」ページはこちら



ポイント 1

生産者、JA関係者に関連する本所のニュースリリースや県本部の各種情報を絞り込んで発信



耕種



畜産



ポイント 3

畜産経営に関する営農支援情報を掲載。「JACCネット」が発信する各種情報や、全農畜産サービスなどグループ会社のサイトが掲載する関連情報への入り口等を集約



生産量日本一のピーマンや

天皇杯受賞の甘藷を軸に世界進出

JAなめがたしおさい (茨城県)



概要	平成31年3月末日現在
正組合員数	1万3096人
准組合員数	5980人
職員数	284人
販売品取扱高	200億2千万円
購買品取扱高	40億1千万円
貯金残高	1148億5千万円
長期共済保有高	3515億1千万円
主な農産物	ピーマン、甘藷、米、 イチゴ、レンコン、水菜、チンゲンサイ、 花き

JAなめがたしおさいは、日本一の生産量、販売高を誇るピーマンや、甘藷をはじめ、60品目以上の青果物を生産する高品質多品目産地です。

省力化と生産振興目指し ピーマン集出荷施設稼働

同JAは出荷作業に係る生産者の負担軽減と安定した農業経営の実現のため、2018年6月に波崎青販



日量80トンを処理できる集出荷施設

部会波崎集出荷施設を竣工しました。同施設は日量80トンの処理が可能で、無選別出荷による重量選果システムや、バラ詰め機械およびフィルム詰め機を備えます。選果統一で、高品質での安定供給、有利販売が可能となりました。生産者は収穫後の選果選別作業が無くなり、出荷調整にかかっていた時間を生産・管理に向けることができ、ピーマンの品質向上や規模拡大、農業所得の向上につながりました。



スーパー店頭での焼き芋販売

焼き芋フームの火付け役 「焼き芋戦略」で地域活性化

同JAと甘藷部会連絡会は、仲卸業者、小売店と協力し、引き売りが主だった焼き芋がスーパーの店頭で手軽に買えるスタイルを全国に先駆け確立しました。どの売り場でも、どの従業員でもおいしく焼き上げるための「焼き芋マニュアル」を整備し、おいしさの根拠となるデータを茨城県と連携し、分析した「焼き芋の話」を実需者に公開しています。365日いつでもおいしい芋を提供するため、三つの品種の特性を見極めて、リレー形式での出荷体制を整えるなど「味」で勝負できる産地を確立し、産地振興に

貢献しています。

2015年10月には食品会社の白ハト食品工業株式会社と協力し、小学校跡地を利用した「なめがたファーマーズヴィレッジ」を設立しました。日本初の焼き芋をテーマとしたミュージアムで、大学芋など加工品の製造工程が見学できる工場を併設し、現在は年間約30万人が訪れる他、雇用の創出など地域活性化の場となっています。これらの取り組みが評価され、第56回農林水産祭で、JAなめがた甘藷部会連絡会が天皇杯を受賞しました。

東南アジアで輸出拡大 フランスでも甘藷PR

同JAは、高品質多品目

を生かして、積極的に海外展開を図っています。2012年からタイへの甘藷輸出を皮切りに、マレーシア、シンガポール、カナダへと拡大しています。昨年7月にはフランスで「行方かんしょ」を現地の料理人やパティシエにプレゼンし、今年3月にはシンガポール伊勢丹で「JAなめがたしおさいフェア」を開き、管内の豊かな農産物をPRしました。併せて「さつまいもかんとう」「スイートポテト」の開発など、6次化の強化に取り組んでいます。また、直販サイトやふるさと納税の返礼品として管内の豊富な野菜を厳選した「野菜ボックス」を販売し、産地のファンづくりを促進しています。

JA全農たまごがコーポレートサイトを刷新 果たせる価値を分かりやすく発信

JA全農たまご株式会社は、コーポレートサイトを刷新しました。【畜産総合対策部】

JA全農たまご
ホームページは
こちら



「生産者と消費者をつなぐ懸け橋」
の理念のもと、「鶏卵産業の発展」に
資するコミュニケーション基盤を目指し
て、コーポレートサイトをリニューアル
しました。ターゲットユーザーを「消費者」
「事業者」「求職者」の三つに分類
し、それぞれのニーズに寄り添いなが
ら、鮮度高い価値ある情報発信を続
けることで、JA全農たまごの取り組み
への理解・共感の促進を進めていき
たいと思います。ぜひ、ご覧ください。



毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

6月6日放送のプレゼントは、「鳥取らっきょう甘酢漬け・鳥取レトルトカレー詰合せ」と鳥取県産新品種米「星空舞2Kg」のセットです。6月6日は「らっきょうの日」。鳥取の「砂丘らっきょう」はシャキシャキとした食感と真っ白な外觀が特長です。カレー購入量・購入金額日本一の鳥取県の素材を生かしたレトルトカレーと「星空舞」に添えて、ご賞味ください。また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは6月6日の放送で
ランキング1位の曲が発表されるま
です。

この商品はこちらからご購入いただけます。

JAタウンショップ名
全農とっとりアグリマーケット



JA全農のインターネットショッピングモール JAタウンショップ紹介

JA全農福島

福島県の初夏を代表する果物・サクランボは、主に
県北地方を中心に栽培されています。なかでも「佐藤
錦」は、濃厚な甘酸っぱさが特徴の「ナポレオン」と甘
味の強い「黄玉」を交配育成した品種で、鮮紅色で光
沢のある見た目と、肉厚多汁で甘みたっぷりの果肉が
特長です。

「さくらんぼの王様」と呼ばれるほど人気がある
「佐藤錦」、福島県では6月中旬から出荷が始まりま
す。甘酸っぱい旬の味をぜひお楽しみください。発送
は6月15日からの予定です(青果物のため前後する可
能性があります)。



ふくしまのさくらんぼ(佐藤錦)約1kgバラ
.....3920円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

